P1

アナフィラキシー対応マニュアル

（愛媛県医師会・愛媛県小児科医会　食物アレルギー対策委員会）

年　組　氏名：　　生年月日　　年　月　日（　歳）

原因食物（アレルゲン）：　　.

対応の流れと役割分担

子どもに異変？迷ったら？
最悪のケースを想定して行動する

＊原因食物を食べた？
⇒可能性を含めてすぐに対応
＊ついた場合はまず洗って次に進む

様子がおかしい？　咳・嘔吐・腹痛・かゆみ・苦しい・のどが変

周囲の職員（おとな）を集める（3人以上）

周囲の児童生徒に配慮

子どもの側を離れない

1）処置係

2）観察・記録係

3）環境設定・連絡係

・チェックシートで症状を確認する
・緊急性を判断する

P3

・給食室に確認
・保護者に連絡
・必要なものを準備
・医療機関に連絡

P4

P2

必要な処置を行う

処置を記録する

救急隊に連絡

P5

寝かせる or 座らせる

頓服・エピペン®

P6

処置の効果を判断する

症状の推移を記録する

救急隊の出迎えと案内

心肺停止に陥ったら　P5
胸骨圧迫・人工呼吸・AED準備

医療機関へ搬送

ポイント　①エピペン®は「迷ったら打つ！」
②血圧低下（ショック）を疑ったら「動かさない・足を高く上げる」

P2

関係諸機関との連絡・連携

＊給食室・保護者・医療機関・消防に連絡し連携する。

年　組　氏名　　男　・　女　生年月日　　年　月　日（　歳）
原因食物（アレルゲン）：

【　給食室に連絡・確認　】
・　何らかの症状出現→給食室に原因食物（アレルゲン）の使用・混入の有無を確認。
・　調理段階で使用していなくても、子ども同士での食物のやり取りの可能性がある。
　食物が関係しない「喘息発作」や「じんましん」かもしれないが…。
※　迷ったら食物関連の症状として対応する。

【　保護者に連絡　】
保護者1　氏名　　続柄（　）☎　　携帯・自宅・職場
保護者2　氏名　　続柄（　）☎　　携帯・自宅・職場
※　保護者に連絡がつかない場合は、医療機関に連絡

【　医療機関に連絡　】
医療機関①：　　医師名　　☎
医療機関②：　　医師名　　☎

救急車の要請119番通報

【　伝えること　】
☐　アナフィラキシーでの救急要請であること
☐　園・学校名、電話番号、園・学校の住所
☐　子どもの名前、年齢、性別
☐　食べてしまったもの、現在の症状
☐　エピペン®を持っているか、使用したか
☐　通報者の名前・職種、携帯番号

あらかじめ記載しておく
園・学校名
（　　）
電話番号
（　　）
住所
（　　）

・子どもの様子を見ながら、救急隊と常に連絡がとれるよう、自分の携帯番号を教え、すぐに受信ができるようにしておく。
・救急隊員を出迎える職員は校門前で待機する。
・出迎え要員が確保できない場合は、子どもが園・学校内のどこにいるか、具体的に伝えておく。（保健室？　教室の場合は〇年〇組の教室）
※　症状の経過や、園・学校でどのような処置を行ったのか、このマニュアルの記載欄
P3　P4　に記入して医療機関に提出をする。
※　エピペン®を使った場合は使用済みのエピペン®を医療機関に持参する。

P3

症状チェックシート　症状と処置

年　　組　氏名：　　食べてしまった時刻：　　時　　分

原因食物（アレルゲン）：　　症状が出始めた時刻：　　時　　分

循環器症状 神経症状	□脈が触れにくい。脈が跳ぶ。 □脈が非常に遅い。心停止 □唇・爪が青くなる。 □ぐったり。暴れる。意識がない □尿・便をもらす ＜時刻　　時　　分＞	□脈が速くなる。 □顔が白っぽい □眠気が出る □軽い頭痛 □怖がる ＜時刻　　時　　分＞	□おとなしい。 □少し元気がない。 ＜時刻　　時　　分＞
呼吸器の症状	□のどや胸が締め付けられる □声が出にくい □犬がほえるような咳 □息がしにくい・息が止まる □持続する強い咳き込み □ヒーヒー・ゼーゼーする呼吸 ＜時刻　　時　　分＞	□30秒に1回くらい繰り返す咳 □ごく軽いゼーゼー □軽い息苦しさ ＜時刻　　時　　分＞	□くしゃみ □鼻水・鼻づまり □咳払い □軽い咳 ＜時刻　　時　　分＞
消化器の症状	□強くて我慢できない腹痛（背筋を伸ばせず丸くなる） □繰り返し激しく吐く □便をもらす。 ＜時刻　　時　　分＞	□強いが我慢できる腹痛（顔がゆがむ） □嘔吐 □2回以上の下痢 ＜時刻　　時　　分＞	□くちがかゆい。おかしい。 □軽い腹痛 □吐き気がする □1回の下痢 ＜時刻　　時　　分＞
顔面（目・唇）の症状		□顔全体が腫れる ＜時刻　　時　　分＞	□目がかゆい。瞼が腫れる。 □目・口の周りが赤い □唇が腫れる ＜時刻　　時　　分＞
皮膚の症状		□強い全身のかゆみ □全身のじんま疹 □全身が真っ赤になる ＜時刻　　時　　分＞	□我慢できる軽いかゆみ □数個のじんま疹 □部分的な赤み ＜時刻　　時　　分＞
	1つでも当てまれば レベル3 重症	1つでも当てはまれば レベル2 中等症	1つでも当てはまれば レベル1 軽症

その場で仰向けに寝かせ、
衣服をゆるめ、
足を30cm高くする　P5
救急車を呼ぶ
必ずエピペン®使用　P6
心肺停止⇒蘇生

その場で動かず安静
十分な観察
飲み薬・吸入薬使用
エピペン®使用可
医療機関へ連絡
（救急車考慮）

安静・十分な観察
次の症状を見逃さない
可能なら保健室へ
飲み薬(頓服)使用
保護者に連絡

P4

対応薬剤と保管場所

薬剤名	量	使うべき症状	保管場所	使った時刻
	mg			時　分
	mg			時　分
	mg			時　分
アナフィラキシー補助治療薬 **エピペン®注射薬**	mg			時　分

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝ メモ ＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

P5

アナフィラキシーへの対応

1. その場で安静にする

① あおむけにして足を高くして救急車を待つ
立たせたり歩かせたりしない！

足を30cm程度
高くする

② 吐いている場合
おう吐物による窒息を防ぐため
顔と体を横に向ける

③ 呼吸が苦しくてあおむけになれない場合
呼吸を楽にするため上半身を起こし
後ろによりかからせる

2. エピペン®を使用する
3. 救急車を要請する（119番通報）
4. エピペン®を使用し10分後に症状の改善が見られない場合は、次のエピペン®を使用する
5. 反応がなく、呼吸がなければ心肺蘇生を行う

①反応の確認
- 肩を叩いて大声で呼びかける
- 人を集める

↓ 反応がない

②119番通報

③呼吸の確認
- 胸とお腹の動きを見る
- 10秒以内に判断

↓ 普段通りの呼吸をしていない

※普段通りの呼吸をしているようなら、
観察を続けながら救急隊の到着を待つ

④胸骨圧迫
（可能なら人工呼吸）
AED準備
- 胸の真ん中を両手で圧迫
- 強く（胸の厚さの約1/3）
- 速く（100回/分）
- 絶え間なく（中断は最小限に）
- AEDは無効の可能性があるので、胸骨圧迫を優先する

アナフィラキシー補助治療薬
エピペン®の使い方

使用の目安は P3 参照

1. 携帯ケースからエピペン®を取り出す

ケースのカバーキャップを開け、エピペン®を取り出します。

エピペン注射は下がった血圧を上げます。咳や呼吸困難・喘息発作、腹痛や嘔吐などを止める効果もあります。効果は通常数分以内に現れますが、15－20 分で効果がきれることもあります。

2. しっかり「グー」で握る

青の安全ピンを上に、オレンジの針カバーを下にむけ、しっかり持ちます。
針カバーの先に指や手をあてないよう注意します。

3. 安全ピンを外す

利き手の反対側の手で、青い安全ピンを外します。
外した後は簡単に針が出ますので、取扱いに注意して下さい。

4. 太ももに注射する（ズボンの上からでも打てます）

介助者に足が動かないようしっかり押さえてもらいます。
「今から打つよ。動かないで。」の声掛けをします。
太ももの少し外側に打ちます。カチッと音がするまで強く押します。
音がしたら、そのまま数秒間押し付けます。

5. 注射が済んだことを確認する

オレンジ色の針カバーが伸びているか確認します。
伸びていなければ、3. 4. を繰り返しましょう。
使用後は一時的に症状が軽くなっても必ず医療機関を受診してください。

本マニュアル作成にあたって東京都アレルギー疾患対策検討委員会および名古屋市教育委員会が作成した「緊急時個別対応マニュアル」を参考にさせていただきました。